A YOSHIYUKI OKUYAMA FILM

奥山由之 監督作品

AT THE BENCH

アット・ザ・ベンチ

Ep. 1 Ep. 5 第1編 第5編	SUZU HIROSE 広瀬すず	TAIGA NAKANO 仲野太賀	
Ep. 2 第2編	YUKINO KISHII 岸井ゆきの	AMANE OKAYAMA 岡山天音	YOSHIYOSHI ARAKAWA 荒川良々
Ep. 3 第3編	MIO IMADA 今田美桜	NANA MORI 森七菜	
Ep. 4 第4編	TSUYOSHI KUSANAGI 草彅剛	RIHO YOSHIOKA 吉岡里帆	RYUNOSUKE KAMIKI 神木隆之介

監督：奥山由之　脚本：生方美久［第1編／第5編］　蓮見翔［第2編］　根本宗子［第3編］　奥山由之［第4編］　音楽：安部勇磨

企画・製作：奥山由之　プロデューサー：佐野大　撮影：今村圭佑　録音：佐藤雅之　美術：野田花子　衣装：伊賀大介　ヘアメイク：小西神士／くどうあき　編集：平井健一／奥山由之　助監督：鈴木雄大

制作担当：神谷誌　カラリスト：小林千乃　オンライン編集：土屋瀬莉　グラフィックデザイン：矢後直規　制作プロダクション：SPOON

©YOSHIYUKI OKUYAMA / SPOON

僕の散歩コースの途中には、川沿いにぽつんと佇む１つの古いベンチがあって、“川沿いにぽつん”と言っても、水辺に近いわけではなく、車道沿いにあるバス停のそれでもなく、芝生の広場の真ん中になぜかそれはあって、球遊びをしている子供たちや、犬の散歩をする人たちがチラホラいるのだけれど、みんな邪魔そうにするわけではなく、かといって座るわけでもなく、ただただ通り過ぎていく。

そのベンチと関わる人を見たことがないので、実は誰にも見えていないのではないかと思ったこともあるのだけれど、恐らく、ベンチの設置場所としては風変わりなスタイルをとっていることで、「あぁ座りたいなぁ」とは思わせない絶妙な調度よくなさがあるのだろう。そのベンチの周辺一帯だけがなぜかコンクリートの地面であることも不思議でならない。
僕がそいつに目をつけてからもう何年も月日が経っているのだけれど、一向に撤去される気配はなく、そいつはやはり誰にも見えていないのかもしれない。

そんなある日、近くで大きな橋の工事が始まった。

東京という街は、いつだってうねるように、まるで生き物のように、部分的な変化を続けている。便利になったり、綺麗になったり、勿論いいこともあるのだけれど、いつの間にか無くなってしまう景色を懐かしむ間もなく、記憶は塗り替えられてしまう。
愛着を抱いていた場所でさえ、久しぶりに訪れると「前はどんな様子だったけ…」なんて忘れてしまうこともしばしばだ。

変わりゆく景色の中で、変わらずそこにいるベンチ。古ぼけた座面はなんだか頼りなく、妙な味わいと個性を放っていて、後ろから眺めたときの、まるでおじいちゃんのような哀愁感に僕は心を奪われ、「いま、このベンチを作品として残しておかないと後悔しそうだ」と思い立ち、ベンチだけを舞台に、誰かの会話を集めたオムニバス映画を作ることに決めました。

というわけで…
『アット・ザ・ベンチ』は、変わり続ける東京という街の中で、変わらずに残したい“とあるベンチ”を舞台に、四季折々、ある日のある人たちのちょっとした思い出の時間を紡ぎたい、という個人的な願いからスタートした自主制作映画です。

その思いに呼応して、仲間が１人増え、また１人増え…といった具合に、みんなが“個人”としてベンチに集まってくれました。そうして形成された、サッカーチーム１つ分くらいの僕らは、手弁当ながらも、自分たちでやれる限りのことをやってみよう、という考えで１編ずつをじっくりと作り上げてきました。

ある個人の「こういう映画を作りたい」という思いのもとに、同じく「作ってみようよ」という純粋な思いで集まってくれた人たちがいる、そうして作り上げられた作品は、また誰かの「こういう映画が好きだな」という温かな気持ちに届くと嬉しいな、と思っています。

これ以上に純粋な創作は、生涯の中で何度と出来ることか分かりません。
一緒に作って下さった皆さま、本当にありがとうございました！

奥山由之

11.15（金）ロードショー

テアトル新宿 | テアトル梅田 | 109シネマズ二子玉川